

## 今日のみことば

### □ 4月30日(日) テサロニケ第一 5章

主キリストは思いがけないときに来られる。主が近い多くのしるしはあるが、誰もその日を定めることは出来ない。しかしキリスト者は主の再臨を期待して待ち望みます。

### □ 5月1日(月) テサロニケ第二 1章

主キリストの再臨の時、信じる者は神より安息を与えられ、主の栄光にあずかるが、不信心の者たちは永遠の滅びの刑罰を受ける。

### □ 5月2日(火) テサロニケ第二 2章

キリスト者はその救いに関わる神の選びを確信して、堅く信仰に立たねばならない。そうでないと実際生活には様々な問題があって失敗してしまいます。

### □ 5月3日(水) テサロニケ第二 3章

パウロは問題と取り組む堅実な原則を示す。問題ははっきりと取り扱わねばならない。また愛を持って取り扱わなければならない。建設的に取り扱わねばならない。

### □ 5月4日(木) テモテ第一 1章

エペソの教会の責任者として任命された、若い教師テモテに対しその責任について教える。「健全な教え」のために誤った教えと戦わねばならないが、パウロの教えの目標は「愛」です

### □ 5月5日(金) テモテ第一 2章

エペソ教会に対するパウロの第一の勧めは祈りでした。特にその祈りは自分のためにする祈りと言うより、ほかの人のためにする祈り、とりなしの祈りでした。

### □ 5月6日(土) テモテ第一 3章

教会において私たちはどのように振る舞うべきか。神の家の指導者たちの選択において私たちは慎重でなければならない。指導者はいつも他の人以上でなければならない。

---

ろ ば No. 1813

2017年 4月30日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

コリ第一15:3-4

最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んで三日目に復活したこと、

パウロが「兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受け入れ、それによって立ってきたあの福音を、思い起こしてほしい」と言って書き始めるこの箇所、私たちはパウロの思いを聞かせていただきます。パウロは、伝えられた福音を「受ける」だけでなく、これによって「立つ」だけでなく、またこの福音を「堅く守」らねばならないと説きます。元来私たちは、大切なものを手に入れたら、しっかりとそれを守り、保存することに心を使うものです。この福音はそれに値するものです。福音とは、ナザレの人イエスです。福音・グッドニュースは、イエスの十字架の死によって成し遂げられ、三日目に復活されたイエスによって完成された、私たちへの神からのメッセージです。この神の計り知ることが出来ない御愛を私たちが受けたこの出来事を、しっかりと確かなものとして私たちは語ります。イエスが十字架で死なれ墓に葬られることになった、悲しみに満ちた日の三日後、その悲しみが喜びに変えられる出来事が起こりました。この信じがたいイエス復活の出来事は、私たちの頭の中にしっかりと刻みつけられました。それは、エマオ途上であった弟子たちの証言でも確認されるところです。彼らは「道で話しておられたときまた聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」(ルカ24:32)と言いました。パウロは「わたしが

もっとも大事なこととしてあなたがたに伝えたのは」彼らが復活のイエスと出会ったことによって起こった変化です。彼らの身をよじるほどの悲しみが、三日目には顔を輝かして喜びへと変えられたこの事実は、どのように否定されることがあろうとも変えることが出来ない事実です。パウロは、復活のイエスと出会った弟子たちの証言を列挙し、「そして最後に、月足らずでうまれたようなわたしにも現れました」と証言をするのです

私たちがしっかりと心得させていただくのは、「キリストは死者の中から復活したと宣べ伝えられているのに、死者の復活はないといっている。死者の復活がなければキリストの復活もなかったはずで。そして、キリストが復活しなかったのならわたしたちの宣教は無駄であるし、あなた方の信仰も無駄です更に、わたしたちは神の偽証人と見なされます」といわれますしかし、事実私たちには復活の主イエスあります。従って私たちに死後のいのちの希望があり、私たちに真の幸いがあると言わなければなりません。

大事なことを忘れてはなりません。「キリストが復活しなかったのなら、あなた方の信仰はむなしく、あなた方は今もお罪の中にあることとなります」しかし今、私たちは決して罪の中にはいません。救われた喜びの中に生かされていることへの感謝に満たされています。キリストの死後三日目に起こった出来事のゆえです。十字架の出来事の三日目、世界にすばらしい転換が起きました。私たちはその証人です。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ルツ 1            ルツ、ナオミに誠実であり続ける。

ルツ物語は、士師たちが治めていた時代に起こった。それは人々が自分の目に正しいと映ることを何でも行っていた、イスラエルの暗黒の時代です。しかしこのような暗く邪悪な時代にあっても、神に従う人もいくらかはいた。ナオミとルツは、神と人々に対する忠誠心、友情、そして献身の美しい模範です。

飢饉のためにモアブに夫と移り住み、そこで土地の娘と息子は結婚したが、夫も息子たちも死に、ナオミは息子の嫁たちと生活をしてきた。ナオミは故郷のエルサレムに帰る決心をして嫁たちと別れる決心を伝えたが、ルツは反対した。ナオミを愛していたので、別れること名と考えたこともありませんでした。それ以上にナオミが信じるまことの神を学んでいて、ルツはその信仰を告白しました。彼女はナオミについて異教の地へ帰るのでしたが、この信仰の決断は、彼女に何のものにも勝る勇気を与えました。



Read God's Word.